

新庄地震学発表会を終えて

< 3年生の感想 >

地震学をして思ったことは、自分が地震についてあまり知らなかったということです。だから、地震学をしてよかったと思います。自分たちで調べた地震についての対策を家でしてみようと思ってくれる人が少しでもいてくれたら、うれしいです。



みんなの前で発表するときは、すごく

緊張したけど、間違えずにゆっくり言えて安心しました。発表が終わったら、達成感があって、最後までやり通してよかったと思いました。

染谷 満里奈

地震学の発表をして、夏休み前から取り組んできたことが成功して良かったです。僕たちの班はインターネットを使って調べ、本や資料などを参考にして、パンフレットを作りました。そのパンフレットを地域の人々や小学生に渡すことができ、今までしてきたことの成果がでて良かったです。

僕たちが作ったパンフレットが、来るであろうといわれている南海大地震が来たときに、少しでも役立ってくれたらとても嬉しいです。

山本 明広

私はこの地震学を勉強して、本当に勉強になりました。初めは地震についてあまり知らなかったけど、9月5日に起こったときに、何をしたらいいかわからなくて、とても慌てていました。でもこの地震学をしているうちに、地震についてよくわかりました。もし今度大きな地震がおこっても、前みたいに慌てることがないと思います。本当に良い勉強をしました。

桂木 麻朱

昨日の地震学はとても緊張しました。NHKなどのテレビ局も来ていたので、よけい緊張しました。この前あった地震で、僕は恐くなっていました。初めは何をしたらいいのかと、とても不安だったけど、この地震学で学んだことでちょっと不安が和らぎました。いつ地震が来てもいいように、毎日水や食糧などを用意しておきたいと思っています。まだ半分以上は不安でいっぱいですが、この地震学で学んだことを思い出して、地震に備えたいです。

楠本 雅人

今までは地震が来たら来たで対応していたが、この地震学を勉強して、地震が来たらどう対応していいのかすぐに判断して行動できるようになったと思う。地震学はとても役にたつと思う。これを通して一人一人が何をすべきかわかった気がする。

崎口 和也

僕は初め、ちょっといやだなあと思っていたけれど、やってみてとても勉強になった。地震対策や構造、プレートの動き方など、いろいろなことを知ることができたし、自分たちの発表で地震について知ってもらえたから、やりがいがあって、とてもいい経験をしたと思います。

あと、これを通じて、地震対策について、これからも学ぼうと思えるようになったし、津波対策についても、もっと知りたいと思いました。

だから、僕にとって地震学はとてもいい勉強で、とてもいい体験でした。

法忍 裕也

苦労を重ねて取り組んだ地震学は、2時間足らずで終わりました。その2時間足らずの中で僕らが発表したのは、わずかに2、3分です。今まで懸命に取り組み、まとめた成果は、意外にも少ない時間で語り尽くされるものなのだなあと思いました。

今回の発表は、僕らの活動の集大成なので、みんなにわかってもらえたのではないかと思います。

山本 雄太

昨日の地震学の発表、みんなすごくうまかったし、成功したなあと思った。だけど、自分的にはかみまくったから、自信をもって自分の発表は成功したとはいえないかなと思った。けど、あれだけのアンケートを全て集計して発表できたんだと思うと本当にうれしし、達成感があった。これで地域の人にも地震の怖さについて改めてわかってもらえるといいなあとと思った。

まだやることは残っているけど、成功して本当に良かった。来年の3年生にもがんばってもらいたいです。

嵯峨 佑希

僕たちは、立体地図を作りました。それを体育館においていたら、1、2年生たちが立体地図を見て、「僕の家、危ないやん。」とかいって、自分が住んでいる地域が危険だと知ってくれてよかったです。

あとは、みんな一生懸命発表していたし、体育館の全ての人が生懸命聴いてくれて、うれしかったです。夏休みや休憩時間を使ったかいがありました。

平田 智哉



新庄地震学発表会に参加して

< 新庄中1・2年生の感想 >

一番印象に残ったのは、「最後の後ろ姿」という紙芝居です。地震で亡くなった男の子の物語は、すごくかわいそうだなと思いました。

3年生の発表は、とてもくわしくてわかりやすかったです。はきはきと写真や資料を使ってうまく発表していました。

地震学を通して、地震の怖さや地震に備える準備など、私たちにできることをやっていくべきだと思いました。地震についていっぱい学ぶことができました。 (1年 女子)

地震学の発表はプレートの動き、津波の被害や避難についてなど、地震のしくみや対処の仕方でした。僕の家は耐震をまったくしていません。この発表でより地震の知識が深まって、耐震対策をどんどんしていきたいです。 (1年 男子)

地震学では3年生がみんなで本当に考え努力したんだなと思いました。もし地震があったときの対策法や地震が起きてしまったときに聴きたい歌などをいろいろ教えてくれました。

避難所を木に彫ってこっちにあるというふうにわかりやすく作ったやつはすごく便利で、あれが一番すごいなと思いました。

3年生になると私たちが発表をする番ですが、人のためになるような、そんな発表をしたいと思います。 (2年 女子)

昨日3年生の「地震学」について聞かせてもらいました。みんなそれぞれ、テーマに沿ってよく勉強していました。心肺蘇生法や応急処置の仕方は勉強になるとともに、前にやったおさらいになると思いました。堀口君の班が作ってくれた「避難所」の看板は、私もいろんなところで見かけ、「助かるなあ。」と思いました。



私が一番印象に残ったのは、上村さんの班の「最後の後ろ姿」です。紙芝居にされていてわかりやすく、わかりやすい分、地震と津波の怖さが伝わってきました。

私も来年は、今年の3年生のように、しっかりと調べたいです。

(2年 女子)

新庄地震学発表会に参加して

<新庄小学校・新庄第二小学校6年生からの感想>

地震による被害や津波が新庄町にやってくるおよその時間、地震のおこり方など、いろいろなことがわかりました。

テレビでよく地震のことについて放送していますが、あまりそういうふうな番組は興味がなく、地震についての知識もありませんでした。けれど、みなさんの発表を聞かせていただき、もっと地震や津波のことについて知っておいた方がいいことに気付くことができました。この発表を聞かせていただき、ありがとうございました。（新庄小 6年）

すごく勉強になりました。一番ためになったのが、地震時に持っていくものです。こういうものを持っていけばいいんだとわかりました。まだ用意はしていませんが、近いうちにやっておかねばと思いました。

私は地震が来たらどんなことが起きるのかイメージがいまいちつかめませんでした。が、今、すごくイメージがつかめています。こんなことが起こるんだ、ここはこんなことになっちゃうのかっていうのがだんだんわかってきました。見せてもらって本当によかったと思います。ありがとうございました。（新庄小 6年）



地震の中で一番こわいのは、津波です。津波のこわさもよくわかりました。……。家に帰ってから、津波のおそろしさを家族に教えました。そして、地震が来たとき持っていくものをリュックに入れるようになりました。持っていくものは、中学生の人たちに教えてもらったものを入れるようにしました。中学生が教えてくれたおかげで、家でも気をつけるようになりました。地震のこわさを教えてくれて、ありがとうございました。（新庄小 6年）

今日、新庄中学校で地震のおこり方や起きたときのことなどを教えてもらいました。南海地震がおきたらどのような津波がくるかなどがくわしくわかりました。今まで知らなかったことがいっぱいわかりました。

この学習で少しは南海地震について安心できました。中学生の人たちが全部自分たちで取り組んでいるのがすごかったです。特に避難場所を呼びかけた看板はよかったです。

（新庄第二小 6年）

私が一番印象に残ったのは「最後の後ろ姿」という紙芝居です。とてもわかりやすかったです。私は、もし大事なものを忘れてもそのまま逃げようと思いました。あと災害後に聴きたい音楽にも感心しました。もし、私が被災者だったら音楽を聴いたらちよっとは元気も出てくるし、落ち着くと思います。私は、地震のことを今までよりもっとわかった気がしたし、とてもいい勉強になりました。（新庄第二小 6年）

新庄地震学発表会に参加して

< 地域の方々からの感想 >

今から58年前の今日、南海道大地震があったと聞きました。そして、今年は和歌山でも、新潟、北海道と大きな地震が起きました。改めて日頃の防災意識をもつことが大切だと知りました。近いうちにくるであろうとされる南海大地震に備えて、今日いただいたパンフレットを参考にしたいと思います。

受験勉強もしながらたいへんな努力だったと思います。ありがとうございました。

(40代 女性)

本日はお招きいただきありがとうございます。地震についてくわしく調べられ、わかりやすく発表していただけたので、とても勉強になりました。また、発表を熱心に聴く生徒さんの姿に地震に対する関心の深さを知ることができ、地域住民として安心しました。

災害はいつどこで起こるかもしれませんが、今回の発表までの努力・助け合い協力の精神を大切にしたいと願っています。

(50代 女性)

近い将来起こるであろう・・・という怖い予想があり、今、何よりも命を大切にすること、どうすれば命を守れるか、人の役にたてるか、など、考える機会、しっかりと学ぶ機会となっているのが大変良いと思いました。

3年生の発表も立派でしたが、在校生の聴く態度も良かったです。

ありがとうございました。

(40代 女性)

歴史上、常に津波の大被害を受けている新庄の宿命。そこに住んでいる新庄町民みんなが防災意識を高くもつことが必要です。中学生のみなさんが真剣に地震・津波災害に対する取り組みをこのように取り組んでくれていることに大変喜んでいきます。地域の防災にがんばってくださることを頼もしく感じました。

(60代 男性)



「子どもぼうさい甲子園」 入選

阪神・淡路大震災 10 年記念事業「子どもぼうさい甲子園」に私たちの取り組んだ新庄地震学を応募したところ、26 都道府県 87 校・グループの中から、「防災大賞(1 点)」「優秀賞(3 点)」に次ぐ、「入選(5 点)」の中に選ばれました。

1 月 8 日に神戸で表彰式があり、代表として岡崎沙織・上村麻美・小阪ひでみの 3 名が、紙芝居を中心に新庄中の取り組みを発表してきました。しっかりした発表で、会場の方も真剣に聞いてくれ、うなずいてくれている人もいました。紙芝居の「最後の後ろ姿になろうとは・・・」のところでは、会場が少しざわめきました。ハッピーエンドにならなかったことが、よけいに津波の恐ろしさを伝えたようでした。

新庄地震学の取り組みを、次のように評価してくれています。

9 教科・15 のテーマを駆使した「新庄・地震学」は、中学校のカリキュラムの中で防災教育はここまでできる、というひとつの形を示している。学習を通じて、生徒は地域の課題を知り、問題解決に向けて努力。中学校が地域の防災教育の発信基地になるという願いは、将来の南海地震への備えに貢献するはずだ。(冊子より)



また、昨年起こったスマトラ沖地震・大津波では、亡くなった人は 16 万人に達するであろうと言われています。そんな中、ある地方ではそれまでの紙芝居や劇での津波避難啓発の結果、死亡者がいなかったということから、今回 3 名が、紙芝居を製作し小学校で発表した意図などを、毎日新聞社の記者からインタビューされたりもしました。



このように、新庄中の取り組みが認められたことはうれしいし、今後の励みにもなります。

「子ども防災甲子園に参加して」

岡崎 沙織

子ども防災甲子園に行って、私はいろいろなことを学びました。どこの受賞校もとても良くできていて、発表もとても上手だったです。特に印象的だったのが、最後にスマトラ沖地震の現地の写真を見たことです。家や道が全て壊れていて、とても怖く、信じられませんでした。

こんな貴重な体験ができてよかったと思います。

「子ども防災甲子園に参加して」

小阪ひでみ

1月8日の「子どもぼうさい甲子園」で、私たちは「新庄地震学」を伝えるために、神戸に行ってきました。そこでは、小・中学合わせて11校が発表しに来ていました。どの学校も、本当にいろいろ工夫を凝らし、わかりやすく説明していました。土砂災害に備えるために植樹を行っている中学校。国境を越えイランの子供たちに、自分たちが描いた絵や募金を送っている小学校。地震から家を守るため耐震チェックを行っている中学校など、私たちが考えつきもしないような発表がいくつもあり、すべてためになることばかりでした。

その中でも、私が一番心打たれたのは、愛知県の布土小学校の生徒が手話付きで歌ってくれた「しあわせ運べるように」という歌と、地元神戸の渚中学校の人たちによる創作ミュージカルです。「しあわせ運べるように」は、聞きながらとても感動しました。小学校の子どもたちがあの歌で多くの人たちに、地震の時の皆の協力の大切さなどを教えていました。また、ミュージカルの方は、地震という、体験しなければわからないことを、ミュージカルという皆がわかりやすい形にして、体全体を使って訴えてくれました。同じ中学生なのに、ここまでできるのかとびっくりしました。

私たちも何とかちゃんと発表することができました。しかし、10分という短い時間内に「新庄地震学」のすべてを発表することができなかったのですが、すべてを伝えられたらいいのと思いました。とにかく、新庄中学校の地震に対する活動が、皆に認められたのは、すごく嬉しかったです。

そして、発表の最後に、スマトラ沖の地震や津波の被害を写した写真を見ました。とてもひどいありさまでした。南海地震もいつくるかわからないけれど、私たちがしっかり防災意識をもっていれば、スマトラ沖地震のような大きな地震でも、被害はだいぶ防ぐことができると思います。これからも、この大切な学習である「新庄地震学」を新庄中の伝統として受け継いでいてもらいたいです。そして、地震や津波の怖さを知らない人たちに、地震や津波についての知識を教えてあげられるような存在になっていけたらと思います。今回、発表しに行って、いろんな都道府県からたくさんの学校が来ていました。これだけ日本で地震について調べている学校があるのだから、きっと日本は世界のお手本になると思います。新庄は、その日本の中でも、一番地震に強い街になってほしいです。

今回、いろんな街の地震に対する発表が聞けて、とても勉強になりました。こういう活動が、この発表によって、もっと増えてくれればいいなと思います。



「子ども防災甲子園に参加して」

上村 麻美

印象に残ったのは、スマトラ沖地震の生々しい写真でした。見ていたら、だんだんとなぜかつらくなってきました。もう少し早く（津波警報を）発表していたら、少しでも何かが変わっていたのかなあと思うと、もっと早くに発表できたらと思いました。

今回のスマトラ沖地震のことで、日本だけじゃなくて、外国などでも地震に対する意識が高まったと思うので、いろいろな所でも私たちがやったような取り組みをして、被害を少なくして、一人でも多く助けることができたと思います。

劇 「稲むらの火」

平成14年11月21日、新庄中学校文化祭で、3年生が「稲むらの火」の話を劇にして、熱演しました。新庄地震学とタイアップした取り組みです。

年に一度の秋祭り。氏神様の境内では、豊作を祝い、村人たちが祭りに興じている。



高台の自宅からふもとの村人たちの様子を見守っていた庄屋（浜口梧陵）は、潮が沖に引いていくのを見る。

「そういえば、さっき地震があった。

もしや、津波では・・・。」



「津波が来ることを村人たちにどう知らせたらいいか・・・。そうだ、この稲むらを燃やそう。

村人たちの命には代えられん・・・。」

「庄屋さんの家が火事だ！！」

急いで駆けつける村人たち。

お年寄りをおぶって走る。



津波が村を呑みこんでいく・・・！

ぼう然と見つめる村人たち。

「庄屋さんがあの津波からわしらを救ってくださったんじゃ。」



新庄地震学 学習を終えて

地震学の勉強を通して、僕は地震に対する怖さの感じ方が変わったと思います。この勉強をする前は、地震だけが怖いと思っていたけど、今は地震のあとに来る津波もとても恐いと思うようになってきました。

しかし、地震学の勉強をしたおかげで、地震のあとどのように行動をとればいいのかを学び、地震の恐さの不安も和らぎました。

あと、僕たちのグループが発表した応急手当の方法は、地震が起きて避難できたけれど、ガラスの破片などで足など切った人がいたら、学んだことを発揮し、助けていけたらいいなと思いました。

この地震学を通して、一人一人が何をすべきかわかりました。

平田 裕哉

私は地震学をする前でも地震の恐ろしさについては知っていました。地震が起こったら津波が起こり、たくさんの人が亡くなったり、けがを負ったり、また精神的にも大きなダメージを受けることも知っていました。

それでも、私が知っていたことには一つ間違いがありました。地震は地球の活動であり、とうてい人の力ではそれを止めることはできないし、その被害もどうすることもできないもので、生きたり死んだりするのは「運」だと思っていました。しかし、地震学の勉強をしていく中で、それは間違っていると気づくことができました。

もちろん「運」もあると思います。しかし、私たちが地震学で学んだことを家族に話したり、地域の人に発表したりすることで、みんなの心に防災意識をつけることができます。そして、防災意識があれば、地震が起こったときにでも、ある程度心構えができ、生きのびることもできると思います。

私は地震学をする前も今も、やっぱり地震は恐いです。地震は自分の大切な人の命を奪っていくから……。でも、前と今とで違うのは、地震にビビっているだけではないということと、地震の被害は私たちに防災意識がある限り、最小限に抑えられるということがわかったところです。

楠本 恵美

地震学をやり始めて、進むスペースが遅かったので、最後の最後までかかってしまった。とにかくテーマが難しくて資料もあまりない中で、調べるのはすごく難しかった。

自分たちができることはわずかしかなかもしれないけれど、もし近い将来地震が来たときに、そのわずかなことでもできたらいいなと思いました。

今まで地震なんか来ても大丈夫やろうとなめていたけど、地震学の勉強をして考えが変わりました。これから学習したことを活かしたいです。

小濱 裕也

地震学をする前は、実際大きな地震に遭ったことがないから、津波なんてたいしたことはないだろうと思っていました。しかし、そんな考えは甘いと、地震学をするにつれてわかってきました。自分たちが住んでいるこの新庄の地震と津波による被害は、自分が思っているよりもはるかに大きかったからです。そして、去年の12月に起こったスマトラ島沖の地震を見て、ぞっとしました。

いつかは南海大地震が起こります。被害も大きいだろうと思います。だから、地震が起こる前の対策、地震が起こったとき自分が何をすべきなのか、そして、地震後の悲しみをどうやって乗り越えるかなど、地震学を通して考えさせられました。

また、地震が起こると動揺してしまってパニックになるかもしれないので、冷静になることも大切だと思いました。

中井 佑哉

地震学をする前は、地震について全く関心がなかったし、地震について全然知らなかった。知ろうともしなかった。そんな気持ちで地震学が始まり、地震についていろいろ調べ始めた。

いろんなことを調べていくうちに、私の知らなかったたくさんを知ることができた。地震が来たら自分がどんな対応をしたらよいのか、地震についての対策などいろいろわかった。

でも、9月5日の地震の時には自分が学んだことを一つもできなくて、ただ慌てて何をしたらいいのか頭の中が混乱してパニックになっていた。あれだけ調べて対応の仕方とか知っていたはずなのに、いざとなれば何もできない。地震を恐いと思った。そして、地震についてもっと知っておくべきだと思った。

今、地震学を終えて、地震学は、違う言い方をすれば、自分たちの命を守る大切なことだと知った。地震学をしてよかった。

これからも、地震学で学んだことをずっと忘れないでいたい。

染谷 満里奈

私は、この地震学でたくさんを学びました。

3年生になって地震学をやり始めたとき、先輩たちが地震学でやっていたことがよく理解できました。私たちは小学生でもわかるように説明したつもりだけど、きっとわかっていない人もいると思う。そんな人たちが新庄中で地震学を勉強して「あのとき聞いたことはこのことだったんだ。」とわかってくれればいいです。そして、地震が起こったときに役立ってくれればうれしいです。

私たちの住んでいる新庄は、かつてたくさんの被害を受けました。だからこそ、今、私たちは地震について学んでいるのです。だから、これからもずっとずっと続けていって、もっともっといいものにしてほしいです。

これからも日本ではたくさんの地震が起こると思うけれど、それを止めることはできなくても被害を小さくすることはできるのだから、私たちが学んだことを他の人たちにも、そして、世界でも役立ってくれればいいなあと思います。

樫山 恵子

自分たちは小学校の頃から、南海大地震のことについていろんな話を聞いたりして勉強してきたけど、その勉強とは違って、自分たちで勉強することによって、もっと地震のことについてよくわかるようになりました。

自分たちで調べていくと、地震を体験した人は一番何を必要としているのか、どんな不安があるのかなどがよくわかったし、テレビのニュースでよくしていたエコノミー症候群のことについてもテレビや新聞には載っていなかったことまで知ることができました。

私たちが地震学をしている最中に起こった新潟中越地震で被災している人たちの気持ちも、以前よりも少しでもわかるようになれたと思っています。それでも自分たちが実際地震の体験をあまりしていないし、まだまだ被災地の人の気持ちも十分理解できるとはいえません。

だから、私たちが被害を受けるかもしれない南海大地震についても、機会があれば進んで勉強したいと思います。今までは、地震のことについてこんなに真剣になれなかったのに、地震学を通して真剣になれて良かったです。

岡本 梓

僕たちの住んでいる新庄地区は、地震が起こると津波の被害を受けるおそれがあります。

こんな地域の課題に、僕たちができることを考え、少しでも実践していけるものがあればと、4月から地震学の学習を積み重ねてきました。

図書館やインターネットで情報を集めたり、インタビューしたり、アンケートをとったり、実験したり、作業したりと15のグループがいろいろ工夫して取り組んできました。その際、多くの方々のご協力をいただきました。本当にありがたかったです。

今日は、感謝の気持ちも込めて、僕たちの取り組みを発表します。将来起こるであろう大地震や大津波に備えるために、少しでもお役に立てればと思います。

どうぞよろしくお願いします。

平成14年12月21日

3年代表 山根 誉裕

(新庄地震学発表会でのあいさつより)

私は、この地震学の学習をしてとても勉強になりました。アンケートをとってわかったこともたくさんあったし、他のグループの発表を聞いて地震の恐ろしさが改めてわかりました。地域の人にも小学生にも地震や津波がどれほど恐ろしいか知ってもらえたらいいなと思いました。

今まで、いつ来るか心配だと思うだけで地震や津波に備えていなかったし、地震について知らないことが多かったけれど、この学習を通して、思っているだけじゃなく行動に移すことが大切だと思いました。例えば、地震が起こったときには水や食糧がほしいのに備えている人が少なかったり、地震対策をしている家庭が少なかったり・・・など、いろいろやることが多いと思います。

スマトラ沖の地震では津波のことを知らない地域があったらしいので、これからは世界に向けて地震や津波の恐ろしさなどを伝えていければいいなと思いました。 嵯峨佑希

1・2年の時は、自分たちが地震学をするときに、きちんと調べてまとめて発表できるかとても不安だったし、地震についてもまだあまりよくわからないことがいっぱいありました。

でも、この地震学でいろんなことを調べていくうちに、地震が起こったときどんな行動をしたらいいのかや、避難所でストレスがたまって体調をくずす人がいることや、その人たちのために自分たちが何をすればいいのかが分かってきました。

他の班の人たちの発表を見て、改めて地震や津波の恐ろしさが分かり、家でも地震対策をしなければいけないと思ったし、地震が起こったら何が必要になってくるかも分かりました。

地震学を聞いてくれた地域の人たちにも、地震について少しでも分かってくれたらうれしいと思いました。

平見 真麻

学年通信を読むと、僕たちの避難場所看板のことが感想文に書かれていて、うれしかったです。僕たちが作った看板が災害時に役にたち、一人でも多くの命が救われるといいと思います。

また、取り組んでいるときは、ただ作業しているだけでしたが、地震学発表会のあとは

「自分たちが作った看板によって多くの人の命が救われるのだな。」と思いました。
僕たちの取り組みが、今後の地震や津波で活かされればいいと思いました。

山崎 頌

僕は地震学の勉強をしてきて、図書館などで資料を借りてきたり、インターネットも使ったりして調べていくうちに、今まで地震について全く知らなかったことがちょっとずつわかってきました。

最初の時の自分だと、地震が来ても何もできず、ただ津波が来るのかどうか、この後どう行動すればいいのかわからず、恐くなっているだけだったと思います。

最近の出来事で、スマトラ沖地震がおき、日本人も含めたくさんの命が失われました。1月17日は、阪神・淡路大震災が起きて10年たった日で、TVなどで放送していました。TVなどを見ているうちに地震というものはとても恐く、たくさんの人々の心に傷をつけるものだと感じました。

僕たちが住んでいる新庄地区は海が近くて、津波が来るので、習った地震学の勉強を活かして、家族など地域の人々に伝えていき、協力して地震に備えたいです。

山本 明広